

第 1515 回 8 月第一例会

令和 5 年 8 月 8 日(火)金沢ニューグランドホテル



において、第 1515 回通常例会が開催されました。

細川外茂治会長の挨拶では、ライオンズクラブ国際協会のスローガンについて紹介がありました。

ライオンズクラブ国際協会のテーマ「われわれは奉仕する」では、2023-2024 年度国際会長のパティ・ヒル氏が「世界を変える変化は、突如としては起こりません。たくさんの小さな選択を通じて起こります。思いやりの行為の一つひとつを通じて、私たちは人の人生を変えます。ライオンズクラブとレオクラブの一つひとつを通じて、私たちは地域社会を変えます。地域社会を変える時、私たちは世界を変えます」と書かれています。細川会長からは、このスローガンの説明とともに「私たちは世界を変えます」という力強い言葉がありました。



次に各種報告 PR 事項では、まず社会奉仕委員長の L.東龍盛から、地区統一交通安全運動「ヘルメット普及運動」を 9 月 21 (木) に駅周辺で行われること、献血運動が 8 月 22 日 (火) に金沢流通会館で実施されるとの説明があり、地域環境委員長の L.嶋崎隆之からは、8 月 20 日 (日) に卯辰山清掃活動を行うこと、複合地区アラート委員長の L.堀岡昭夫からは、日本ライオンズ及び 334 複合アラート委員会について報告がありました。



【本日の昼食】

金沢ニューグランドホテルさんの、カレーライス。



本日のゲストスピーチは中村酒造株式会社の代表取締役社長の中村太郎様をお招きして行いました。

日本酒業界は、日露戦争の頃には酒税の占める割合が国税全体の 35%もあったので、国から製造か

ら小売まで免許制度で守られ、大事にされた業界でした。しかし、現在では酒税の割合も国税全体の 2%を切るようになり、また、平成の時代に入り小



売りに関しては、公正取引委員会から流通・取引慣行に関する独占禁止法上の指針が示され、酒類小売規制が緩和されたことによって小売はもとより卸売から製造まで大きな影響をうけることとなりました。また、昭和 40 年代までは米の生産量自体が不足しており、その中で、米を原料として作られるお酒は付加価値の高いものであり、製造すれば売れるという時代もありましたが、米の生産量が増え始めた昭和 50 年~60 年をピークにお酒は余りだし始めました。そうした時代背景の中で、日本酒業界は減衰傾向となり「量」から「質」の時代へと変更せざるをえなくなりました。

日本酒業界を取り巻く環境は今後ますます厳しくなる一方ですが、日本酒自体がなくなることはありません。なぜなら、日本酒は日本の文化と日本の食になくてはならないものだからです。中村酒造は、石川の土壌を大切にして、地域の文化、地域の食に溶け込んだ日本酒造りをしていきたいとの講演でした。

最後にテールツイスターの L.永野琢也が登場し、ドネーションの発表をして第 1515 回通常例会は終了しました。



(記事:中村吉興計画委員長)